

「奈良県結婚・子育て実態調査」結果の概要

調査の内容

1. 調査目的

県民の結婚や子どもを持つこと、子育てに関する意識や現状を把握し、奈良県において子どもを生き育てやすい環境づくりを進める取組を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施

2. 調査対象

- 夫婦調査：平成30年9月1日現在で結婚している50歳未満の男女（届出の有無を問わない）
- 独身者調査：平成30年9月1日現在で18歳以上50歳未満の独身の男女

3. 調査項目

夫婦調査、独身者調査のいずれも、平成25年に実施した「奈良県子育て実態調査」の項目をベースに、一部の項目を削除し、新たな項目を追加。

①夫婦調査の調査項目（48項目）

- ・就労に関すること
- ・夫婦の出会いと結婚のきっかけに関すること
- ・妊娠・出産に関すること
- ・子育ての手助けの有無及び支援制度の利用に関すること
- ・子どもを持つことについての考え
- ・出産や子育ての不安・負担感に関すること
- ・重要と考える子育て支援策に関すること 等

②独身者調査の調査項目（24項目）

- ・就労に関すること
- ・結婚や独身生活、子どもを持つこと等についての考え
- ・子育てに関するイメージ 等

4. 調査方法

- 郵送法 ○調査期間：平成30年9月5日～平成30年10月24日
- 抽出方法：県内市町村から選挙人名簿に基づき無作為抽出
- ※調査方法は郵送法であり、訪問留置調査を実施した平成25年等の県調査及び平成27年の全国調査（出生動向基本調査）とは方法が異なるため、結果の単純比較はできないが、本調査目的を達成するための参考データとして、比較結果を有効活用する。
- ※過去の調査および全国調査の夫婦調査については妻のみを回答の対象としているが、今回の調査は、新たに夫も回答の対象としている。

5. 回収結果

	配布数	回収数	無効票	有効回答数	有効回答率
夫婦調査	3,963	1,313	9	1,304	32.9%
独身者調査	3,945	777	9	768	19.5%

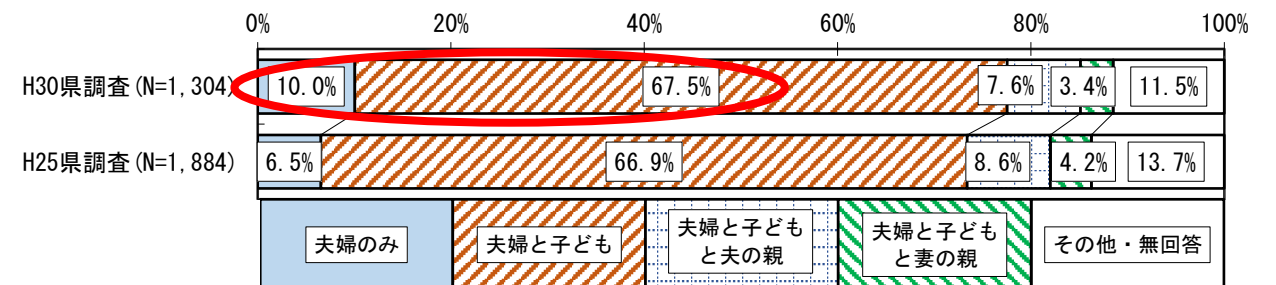
調査結果のポイント

1 夫婦の世帯構成

○独身者の約8割（76.0%）が親と同居しているが、結婚後の夫婦の約8割は核家族となっている。（下記図1・「夫婦のみ」と「夫婦と子どもの世帯」）

[参考：奈良県の核家族世帯割合] 63.9%・全国一（H27国勢調査・分母に単独世帯含む）

【図1 夫婦調査の家族構成】



2 子どもの数

○理想の子ども数（平均2.35人）より予定の子ども数（平均2.03人）は少なく、その差（0.32人）は全国と同水準

[全国数値] 理想の子ども数(平均)：2.32人、予定の子ども数(平均)：2.01人 その差：0.31人

[夫婦の現在の子ども数(平均) ※] 奈良県：1.97人、全国：1.94人

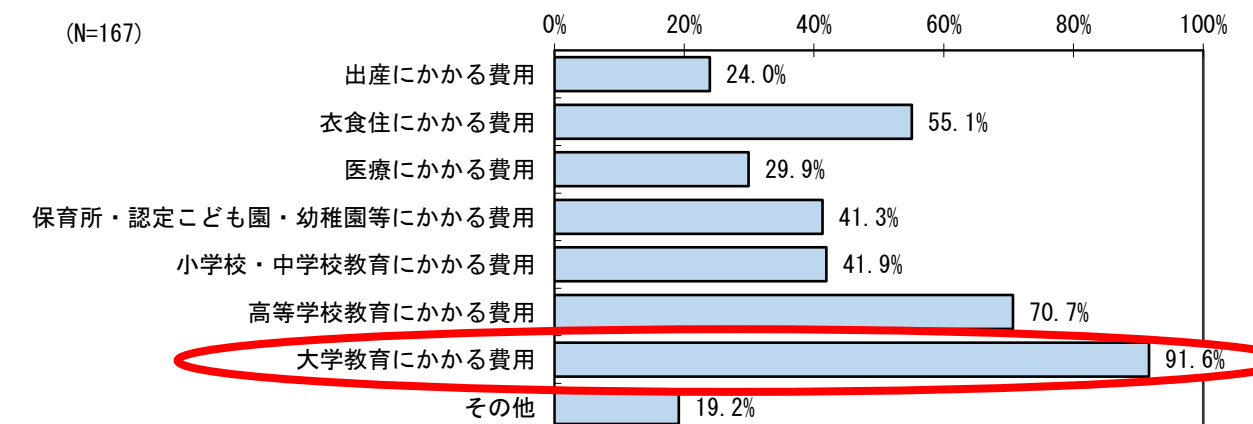
(※全国調査にあわせ結婚持続期間が15～19年の夫婦間の子ども数と定義)

○理想の子ども数を持たない理由の1位が「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」。その要因の1位は「大学教育費用」（下記図2）

[理想の子ども数を持たない理由（降順・複数回答）]

- (1) 「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」50.6%
- (2) 「高年齢で生むのはいやだから」30.1%
- (3) 「欲しいけれどもできないから」22.1%

【図2 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因】(複数回答)



※「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した、予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦

3 子育ての楽しさ・しんどさ

○6歳未満の子どもがいる妻の子育ての心理的・精神的な不安・負担感を「まったくそう感じる」割合（12.9%）は、前回（13.3%）に比べ微減したが、「どちらかといえばそう感じる」と合計すると（49.8%）やや増加（下記図3）

[妻の身体的・体力的な不安・負担感（下記図4）]

- (1) 「まったくそう感じる」（12.7%・前回比較▲2.1%）
- (2) 「どちらかといえばそう感じる」（41.5%・前回比較+5.9%）

[妻の金銭的・経済的な不安・負担感（右記図5）]

- (1) 「まったくそう感じる」（18.1%・前回比較▲6.7%）
- (2) 「どちらかといえばそう感じる」（38.5%・前回比較▲6.3%）

○妻が最も不安を感じた時期は「出産前後」「新生児期」で、しんどかったことは「夜泣きで寝不足」なこと

[妻が出産前後に「とても不安」「少し不安」と感じた時期（降順）]

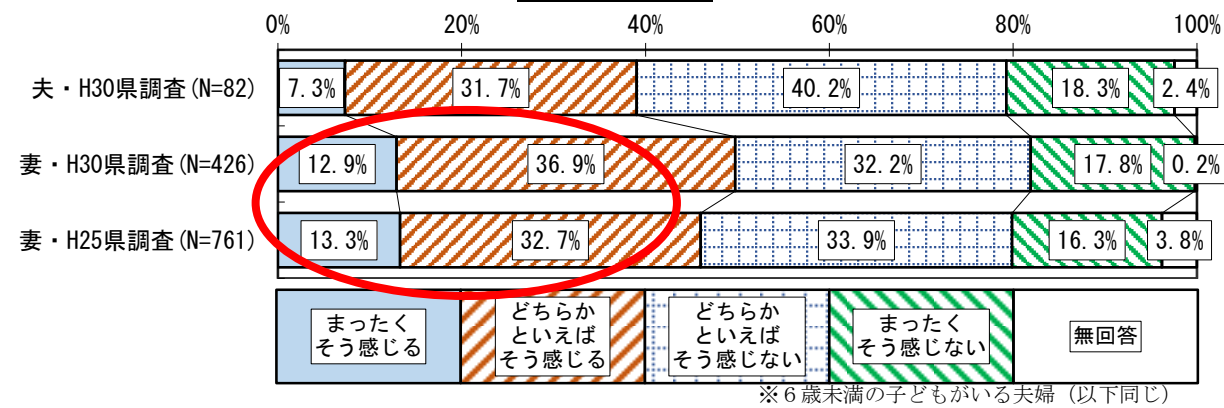
- (1) 「出産直前・直後」78.0% (2) 「新生児期（生後4週間まで）」77.0%
- (3) 「妊娠初期（～13週）」72.6%

[不安でしんどいと感じた要因（降順・複数回答）]

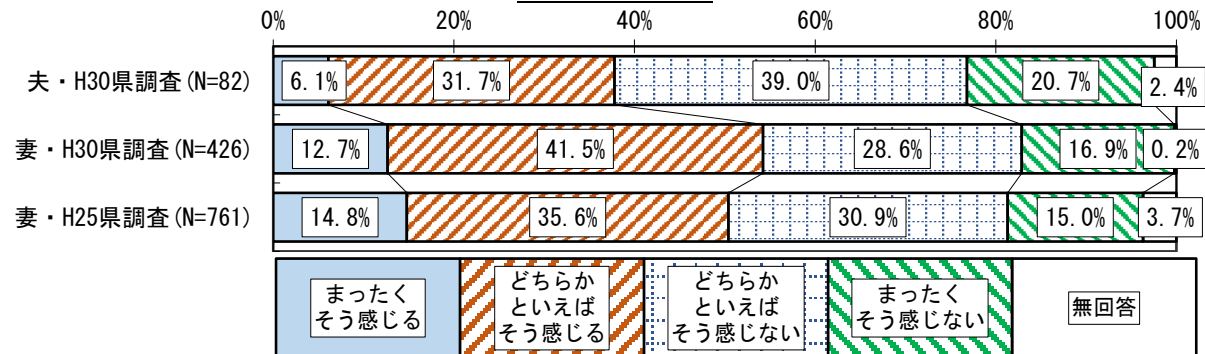
- (1) 「夜泣きで寝不足」46.0% (2) 「子育てについてわからないことが多い」41.6%

○独身者では子育てが「楽しいと思う」割合は約2割（17.7%）だが、約6割の夫婦が「子育ては楽しい」と感じている（夫58.5%・妻59.4%）

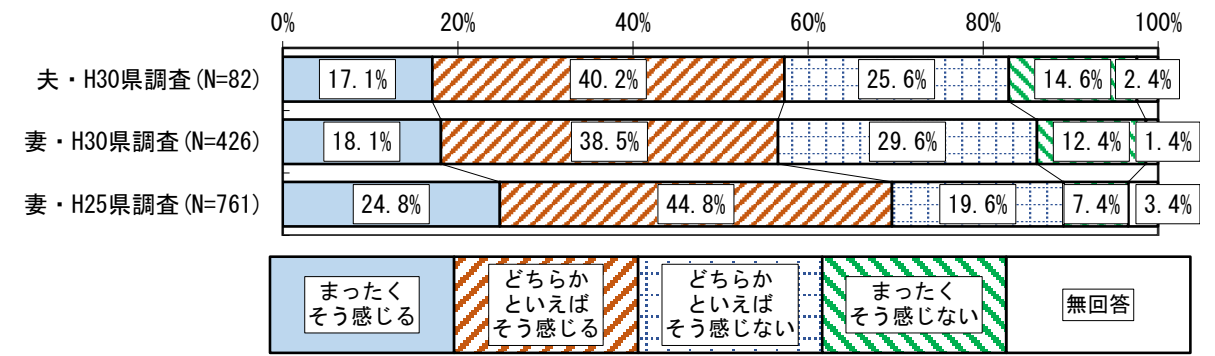
【図3 子育ての心理的・精神的な不安・負担感】



【図4 子育ての身体的・体力的な不安・負担感】



【図5 子育ての金銭的・経済的な不安・負担感】



4 夫婦の子育て

○妻の家事や子育てを一番助けてくれる人は「妻の母親」であるが、一番助けてほしい人は「夫」

[妻の家事や育児を助けてくれた人（降順・複数回答）] 「妻の母親」63.8%、「夫」52.7%
 [妻の家事や育児を助けてほしい人（降順・複数回答）] 「夫」57.9%、「妻の母親」32.3%

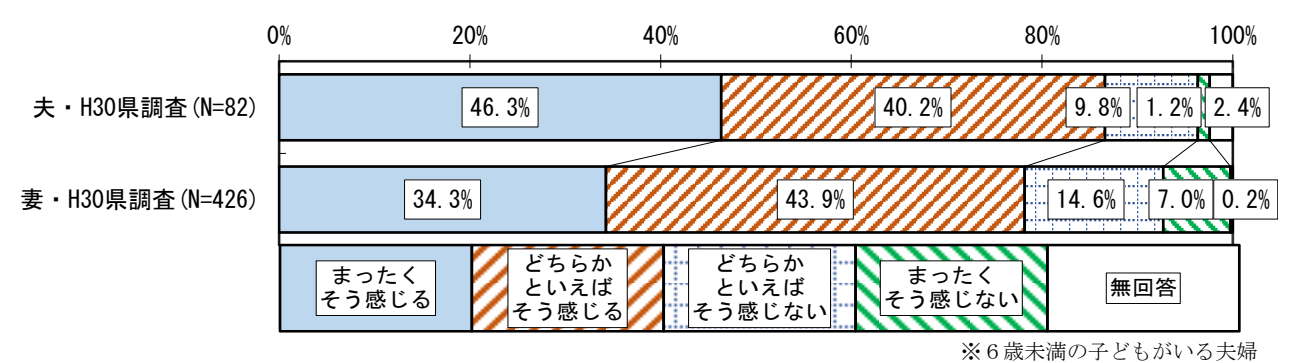
○育児の夫婦の分担状況は、「子どもをあやす」や「離乳食・食事」等12項目すべての項目で妻に負担が偏っており（約8～9割）、妻が一番しんどいと感じる「夜泣きの対応」（先述）では、夫の5割近く（45.8%）が「まったくしていない」

[妻が育児を「いつもしている」「ほとんどしている」の合計（6歳未満の子どもがいる夫婦）]
 (1) 9割前後が8項目→「子どもをあやす」「離乳食・食事」「オムツがえ」「夜泣きの対応」「子どもが病気の時、面倒を見る」等
 (2) 7～8割が4項目→「入浴・沐浴」「子どもと一緒に遊ぶ」等

○夫婦の子育ての一体感は、夫を感じるほどは妻は感じていない（下記図6）

○子育てに関わっていない夫の理由は、8割近くが「仕事が忙しいから」（78.9%）

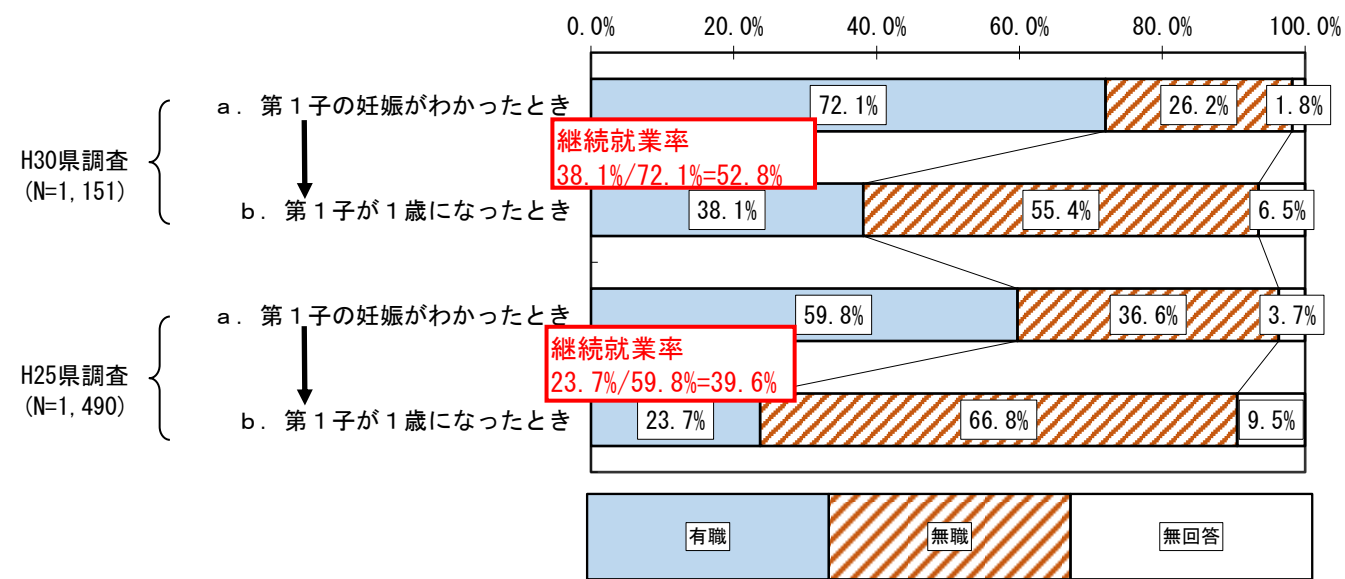
【図6 パートナーとの子育て一体感】



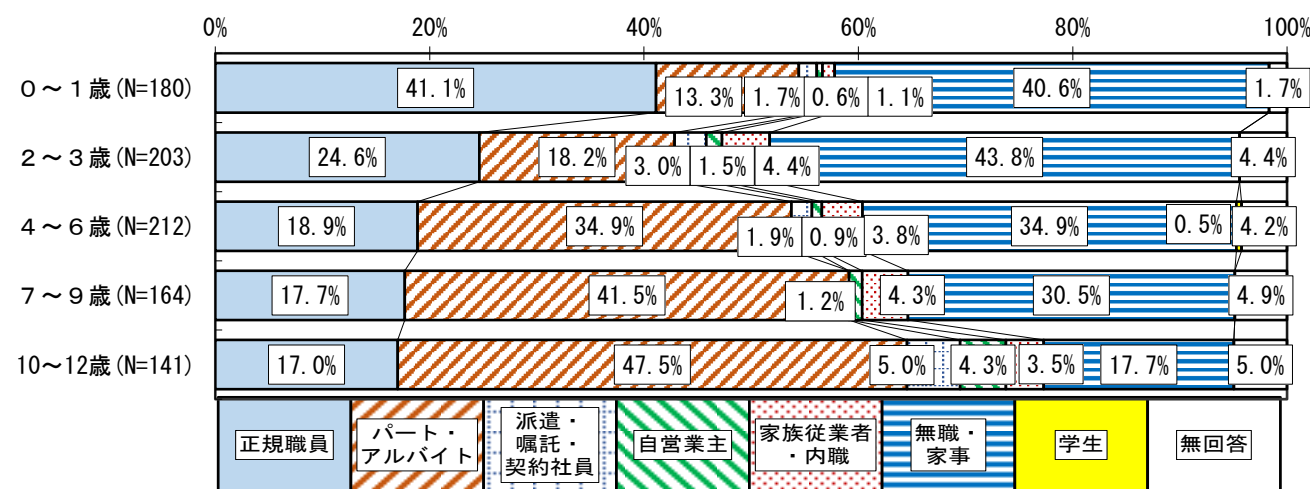
5 妻の就労状況

- 妻が第一子出産を機に退職した割合は、前回調査の約6割から約5割に減少（下記図7・継続就業率が今回：52.8% ⇔ 前回：39.6%）。
- 仕事を辞めた理由の1位は「家事・子育てに専念したい」から（49.0%）
[辞めた理由2位] 「子どもが生まれ、仕事と子育ての両立が困難となったから」（18.2%）
- 妻の「正規職員」の割合が、末子が1歳の時（4割）に比べ4歳以降では半減。反対に、「パート・アルバイト」の割合は1歳の時（1割）に比べ約3倍かそれ以上となっている。（下記図8）
- 未就労の妻の約6割が働きたいと思っている（60.8%）。希望する勤務形態は、短時間勤務のパートやアルバイトが多く、希望する勤務条件は、子どものための休暇がとりやすく、家から近い職場であること
[妻の就労の条件（降順・複数回答）]
 (1)「短時間勤務ができる仕事があること」、「子どもの看護・授業参観・急病等の際に休暇を取りやすい職場であること」がともに58.2%
 (2)「自分の知識・能力に合う仕事があること」31.1%

【図7 第1子出産前後の妻の就労状況】



【図8 末子の年齢別 妻の現在の就労状況】



6 結婚観

- 独身者の結婚意欲がある人の割合は、全国の水準とほぼ同程度（下記図9）
- 独身でいる理由の1位は男女とも「適当な相手にまだめぐりあわないから」だが、女性が結婚相手に「経済力」を求める割合は、全国平均より10ポイント以上高い
[独身女性（18～34歳）が結婚相手を決める際に「重視する」こと（全国差・降順）]
 (1)「相手の経済力」（奈良県50.4%・全国平均39.8% その差+10.6%）
- 夫婦調査では、結婚を決めたきっかけの第1位は「年齢的に適当な時期だと思ったから」だが、夫婦の約9割が（93.4%）、結婚してよかったと思っている
[夫婦が結婚を決めたきっかけ（降順）]
 (1)「年齢的に適当な時期だと感じた」62.3%
 (2)「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」28.9%

【図9 いずれは結婚しようとする未婚者の割合】

